


特別展評価シート(1/3)

施設名	大阪市立美術館	展覧会名	住吉さんー住吉大社1800年の歴史と美術ー
-----	---------	------	-----------------------

概要・実績	目的	<p>住吉大社では平成23年に御鎮座1800年を迎え、49回目の式年遷宮、式年遷宮祭がとりおこなわれる。そのイベントとして、住吉大社と関係の深い短冊や歌切れなどの和歌関連の作品、住吉大社が描かれた絵画や工芸作品、住吉大社に伝わる舞楽関連の作品や奉納品などを一堂に寄せ、日本美術における「住吉大社」の位置づけを明らかにする。</p>				
	会期	平成22年10月9日～同年11月28日	会期	44日		
	主催	大阪市立美術館 産経新聞社 NHK大阪放送局 NHKプラネット近畿				
	共催・後援	共催 住吉大社 後援 サンケイスポーツ 夕刊フジ サンケイリビング新聞社				
	協賛・助成	協賛:大阪市信用金庫 シマノ シャープ 住吉村常磐会 辰巳商会 田渕海運 南海電鉄 日本金網商工 野崎印刷紙業 パナソニック 協力:大阪府神社庁 魚萬珍味堂 (医) 健友会帝塚山病院 樽平酒造 阪堺電気軌道				
	観覧料	一般1,200円	無料対象者	中学生以下および市内在住65歳以上、障害者		
	観覧者総数	42,881人	有料入場	13,868人	有料率32%	
	作品件数	203件	うち、借用	196件		
	関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンによる作品解説 ・講演会 ・NHK公開講座 ・神楽舞 住吉踊 田植踊 ・和歌披講 ・落語会 				
	企画・実施	学芸員 土井久美子 ・ 主任学芸員 知念理				
成果	<p>堺市博物館（昭和59年）、大阪市立博物館（昭和60年）で開催された住吉大社展の成果をベースに、二つの展覧会への未出品作品、新出作品、新解釈を加えて、関連した美術工芸品を網羅し、美術展としての新たな切り口を提示する展覧会となった。大阪市民に親しみ深い「住吉さん」への再認識を促し、区域のにぎわい創出にも資する展覧会となった。</p>					
補足事項						

特別展評価シート(2/3)

施設名	大阪市立美術館	展覧会名	住吉さん－住吉大社1800年の歴史と美術－
-----	---------	------	-----------------------

定量評価	目標	入場者数	予算	外部資金	総事業費	観覧料収入	その他収入	収入合計	図録販売数
	実績	42,881人	84,715,788円	9,825,000円	94,540,788円	17,237,804円	68,451,755円	85,689,559円	2,733冊
達成率	67.2%	101.5%	122.8%	103.4%	60.0%	109.1%	93.7%	85.7%	
定性評価	実績・伝統の継承と新たな魅力創出	評価点	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館側からの積極的なアプローチにより住吉大社の全面的な協力を得て、調査研究の成果に基づく質の高い展覧会を多数開催してきた美術館ならではの学芸力・展示の企画力を発揮して、大規模な展覧会を開催したことを評価する。 ・展覧会にするのが難しいと言われる神道文化を多様な資料を駆使して完成度の高い展覧会にしたことを評価する。これまで開催された住吉大社関係の展覧会の実績を十分継承しつつ、新しい切り口も加えた展覧会を開催したことにより、大阪市民にとって馴染みの深い住吉信仰と住吉大社の歴史的意義を明らかにする展覧会になった。 						
		改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和初期に開館した伝統のある美術館ということもあって、展示空間の造作や照明の設定に多くの制約がある。現在の施設内では、展示品のもつ魅力を十分発揮できる空間をつくることや観客にとって利用しやすい環境にすることは困難である。施設（展示ケース、照明設備等を含む）のリニューアルにできるだけ早期に取りかかる必要がある。風格ある建物の特徴をいかしながら、最新の展示技術や保存環境が導入できる空間になることを期待したい。 						
定性評価	さまざまな来館者への対応	評価点	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者は目標数の約3分の2にとどまったが、住吉大社にかかわりの深い阪堺線の利用者に多数足を運んでもらうなど、美術館の観客層をひろげることに成功した。とりわけ、若い層の来館を促進するために展覧会の公式サイトとツイッターを立ちあげたことを評価する。ツイッターは、大阪市立美術館では初めての試みであり、広報手段の多様化を図る上で重要な一歩になった。 ・大学院生の美術館インターンによるスライドを使用した作品解説を定期的（毎週火曜日の午前と午後）に実施し、多数の参加者が得た。この解説は、①美術館と大学との連携によるコンテンツの豊富化、②学術性と親しみやすさ・双方向性をあわせもつ展示解説の提供、という点で評価できる。また、住吉大社の協力により、関連イベントとして住吉大社の行事（神楽舞、住吉踊、和歌等）を多数企画・実施し、参加者から高い評価を得たことも評価できる。 						
		改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国では、人口構造の変化により、若い年齢層が減少し、高齢者が急増している。大阪市でも顕著な現象である。また、グローバル化の進行により、訪日する外国人に日本文化の理解を図る機会を提供することも重要な課題になっている。このような情勢の中、大阪市内、高齢者層だけではなく、ひろく関西全域、30～60歳代の集客がポイントになっている。この展覧会では、幅広い地域、幅広い年齢層からの集客という点では課題を残した。外国人の観客も含め、集客戦略、広報戦略、満足度をあげるための戦略を練り直す必要がある。 ・美術館のある天王寺公園が有料の公園であることから、美術館を訪問する際に、他館にはない問題点（公園の入口のわかりにくさ、入りにくい雰囲気）がある。親しみやすい雰囲気、気軽に入場できる雰囲気を醸成することが、多くの観客を迎える上で重要な課題である。美術館での美術鑑賞を活性化させる上で重要な装置であるレストランとカフェについても改善が必要である。 						

特別展評価シート(3/3)

定 性 評 価	連携による 総合力の 発揮	評価点	<ul style="list-style-type: none"> ・住吉大社の全面的な協力を得て作品調査、展覧会、関連イベント等を実施し、質の高い展覧会を実施したことを評価する。 ・少ない人数で展覧会の企画・運営を行ったにもかかわらず、大規模な展覧会を開催できたのは、スタッフの努力、住吉大社の協力の他に、全国の博物館や大阪市関係機関から多くの作品が借用できたことと大阪歴史博物館の住吉大社関連悉皆調査結果が活用できたことによる。美術館の運営にとって今後ますます重要になる“他機関との戦略的連携”が実現できたことを評価する。
		改善点	<p>入館者数を確保するために従来から実施してきた行政機関（区役所）との連携による広報活動（区の広報誌への情報掲載、区役所ブースの設置）が形骸化しつつあることを踏まえ、これまでの広報面の連携先等については、抜本的に見直す必要がある。新たな観客層を開拓する上でも、広報面の連携先と連携内容の見直しと新たな戦略の開拓が急務である。</p>
	ニーズに 即し効果 的な事業 展開	評価点	<ul style="list-style-type: none"> ・展覧会をマスコミとの共催事業として企画・運営したことにより、多額の外部資金の導入が可能になったこと、関連イベントに多数（約3千人）の参加を得るなど効果的な広報活動を行ったことを評価する。
		改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの資料をストーリー性をもって展示し、展覧会の水準が高かったにもかかわらず、若い層や普段美術館に足を運ぶことの少ない層へのアピールが弱く、入館者数の目標数を達成できなかった。質の高い展覧会を開催すれば入館者数の確保ができる時代ではなくなりつつあるとの認識の下、美術館の広報戦略と集客戦略を練り直す必要がある。 ・他の展覧会では例のない程多様な映像資料が用意されていた。優れた映像資料を多くの人に視聴してもらうためには、映像資料の周知、モニターのサイズと配置場所、放映時間の周知に工夫が必要であった。モニターは今後も使用があると思われるので、配置場所に相応しいサイズのもの確保することを期待する。

総 評	評価点	<ul style="list-style-type: none"> ・関西を代表する美術館が地域の文化資源をテーマにした大規模かつ水準の高い展覧会を開催したことにより、美術館としての地域貢献を行うことができた。 ・美術館の職員が減少傾向にある中で努力を重ねることにより、大阪市立美術館等が過去に開催した住吉大社関連の展覧会の実績を十分継承しつつ、新しい切り口の展覧会を開催した。
	改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・地方公共団体等の財政難と日本社会の構造的変化により博物館・美術館を取り巻く環境が激変している。美術館でも、2010年代に適合する館の経営戦略を練り直す必要がある。また、多くの予算・人員をかけ、多数の展示品を集め、多数の観客に見てもらう大規模展覧会の開催が年々難しくなっている中で、大阪市のような都市部でも人口減や高齢化が更に進展していく。今後の変化を見据えて、展覧会の在り方や入場料収入の確保策について検討していくことが望まれる。 ・関西を代表する美術館にふさわしい施設の在り方を早急に検討していく必要がある。美術館の現場からも、展示・収蔵環境、機能の低下が著しいことが指摘されており、施設の老朽化対策、リニューアルに計画的に取り組む必要がある。3月に発生した東北地方太平洋沖地震においても、美術館を含む多くの公共施設が甚大な被害を受けたことに鑑み、貴重な文化財を保存・展示し、多数の観客を受け入れる施設として、ハードとソフトの両面で適切な対応策を講じる必要がある。